

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		WakuWakuあゆみ		公表日		2026年3月30日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		人数が多いと手狭に感じる事もあるが、スペースとしては十分に確保している。	収納を工夫してより広く使えるようにしていく。状況によりパーテーションで区切って使う等工夫していく。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		基準以上に手厚く配置している。	状況により更に人数が必要に感じる事もあるが、職員同士で連携してカバーしていく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		手洗い場の高さが低学年のこどもには使いにくさがあるが、台等を使って使いやすくしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		心地良い環境を心がけている。	おもちゃの出し入れの仕方等により工夫が必要。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個室を2部屋用意している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○		都度、課題には向き合っているが、PDCAサイクルが職員に周知できていない。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年ご協力頂き、ご意見を把握している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		会議や面談等で意見を聞き、課題があれば改善方法を検討している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		法人で検討。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		隔月で内部研修を実施する他、外部研修の案内をしている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページ上で公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		こどもの様子と保護者への聞き取りから整理し、計画を作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		計画作成会議を行い、複数の職員に意見を聞きながら検討し計画を作成している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員会議で職員全体に計画を説明し共有している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○		フォーマルなツールは使用していない、今後検討する。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		本人支援を一人ひとりに合わせ細かく丁寧に作成している。	移行支援・地域支援についても作成しているが、内容を更に精査していく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		担当職員を中心に計画し、他の職員の意見を聞いている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		毎回、楽しく色々な経験ができるよう工夫している。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		一人ひとりの状況に応じて支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		個々の状態・状況も含めて共有し、連携している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○		振り返りの時間が十分に持てていない。時間や方法を検討していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		利用者毎に担当者が記録している。	より支援の検証に活かせるようにしていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6か月に1回以上行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		概ねガイドラインに則って支援している。	より支援の検証に活かせるようにしていく。こどもが主体になれるよう工夫していく。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		できるだけ自己選択ができるよう支援している。意思表示の難しいこどもには様子を見ながらチームで検討している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		できるだけ関わりの深い者が参加するようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて連携している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		各学校の状況に応じた方法で情報共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○		相談支援員を通じて一部情報を頂いているが、全員に対してはできていない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		法人内の進路先とは情報共有できているが、他はできていない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○		必要な機会がなかった。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域の中学生と農作業交流を行っている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		奈良市障がい児通所支援連絡協議会の活動に積極的に参加している。自立支援協議会にも一部参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		必ず報告している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		情報を積極的に得て発信していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		丁寧な説明を心がけている。	
	37	放課後等デイサービス計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者の意向を確認して作成している。	こどもの意思を確認できるよう工夫が必要。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		丁寧な説明を心がけ、同意を頂いている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		面談の機会はなかったが、引継ぎの際や電話等で相談に応じている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		ファミリー交流会を実施した。	きょうだい同士の交流の機会を検討する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情受付について入口に掲示している。契約時に体制について説明し、ご不満やご指摘があればすぐに対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		通信「わらいふ」を発行しHPにも掲載している他、紙媒体の「Day by Day」で情報発信している。	SNSの活用を検討。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		守秘義務を徹底している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		口頭やLINE等のツールも使って情報伝達している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		法人であゆみ祭を開催し、多くの地域の方に来ていただいている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○		防犯マニュアルが不十分。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定している。定期的に避難訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者に確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○		保護者に聞き取りした内容に沿って対応している。保護者を通じて医師の指示書の控えを頂いているが、全員にはできていない。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		○		月に一度安全点検を行う他、日々安全に配慮しているが、研修は行っていない。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○		安全計画は不十分。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		法人内で共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年1回以上研修している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		必要となる可能性のある児童に関しては、保護者に説明し了解を得て計画に記載している。		